



- 患者さんの人権と権利、そして思いを尊重します
- 急性期医療、がん医療、予防医療を推進します
- 救急医療の充実に努めます
- 地域の医療・介護・保健機関とつながる医療を行います
- 職員の働きがいのある職場をめざします



地域の皆さん、かかりつけ医、病院等の 連携で共に歩みましょう。

国民健康保険 小松市民病院
院長 村上 眞也

すがすがしい陽気となってきました。

皆さんは“かかりつけ医”という言葉をご存知でしょうか。かかりつけ医とは「日常的な診療や健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師」のことです。“かかりつけ医”を持つことのメリットは、お住まいに近いため通院しやすく、日頃の皆さんの健康状態を知っていて、体調などに関して何でも相談できるので、医療面で早めの対策がとれますし、入院治療や特殊な検査が必要な場合には、専門家を的確に紹介できることです。医療機関は連携して地域の医療を守り、切れ目のない医療を提供しています。まずは“かかりつけ医”を受診していただき、必要に応じて南加賀における急性期医療の中核病院である当院に紹介していただくことで、それぞれの役割を發揮することができます。

また2025年の超高齢化時代に向けて、患者さんの住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で支える医療、医療と介護の連携、さらには住まいや自立した生活の支援までもが切れ目なくつながる医療など、「地域包括ケアシステム構築」が必要とされています。当院は南加賀の中核病院として救急医療をはじめ、急性期医療を中心とした医療提供体制に努めてまいりましたが、昨年度は「地域包括ケアシステム」での急性期病院としての役割強化のため「つながるサポートセンター」を開設し、患者さん一人ひとりの状況を把握して入院前から退院後まで一貫した支援の提供（入退院支援）、地域の医療保健機関や介護施設等との連携強化を図っています。

ところで病院に勤務する医療従事者の長時間労働・過重労働・過労死が社会的に問題視されています。医療機関での勤務環境改善は「雇用の質」の向上、ひいては「医療の質」、「患者さんの健康」の向上につながります。午前の外来診療が長時間にわたり、その後の入院患者さんの処置や手術が時間外になることがあります。市民の皆さんが“かかりつけ医”をもってくださり、日常的な診療や健康管理は“かかりつけ医”で、入院での高度医療処置や手術には急性期病院である本院をご利用いただければ、医療従事者の働き方改革の一助にもなります。

地域の皆さん、“かかりつけ医”・医療機関、介護・福祉施設と共に歩み、安心・安全で質の高い医療の提供に努める所存ですので、市民の皆さんのご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

新任医師紹介

- ① 専門分野・得意分野
- ② 資格(認定・指導医・専門医)
- ③ 趣味・その他
- ④ 市民のみなさんに一言

循環器内科

やぎ まりこ
八木 麻里子 先生



- ① 内科・循環器(心不全、狭心症、不整脈)
- ② 日本内科学会 認定内科医
- ③ ピアノ、スキー
- ④ 地域の皆様の健康を目指し、生活習慣病の予防をすすめるとともに、安心して日常生活を継続していけるよう努めております。

循環器内科

やま がみ かん
山上 幹 先生



- ① 循環器内科
- ③ ラップ、ドライブ、写真
- ④ なんでも話せる親しみやすいドクターを目指します!どんな些細なことでもご相談下さい!

消化器内科

いとう れん ま
伊藤 練磨 先生



- ① 消化器がん、内視鏡、化学療法
- ② 日本内科学会 認定内科医
日本消化器病学会 認定消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- ③ スポーツ鑑賞、読書
- ④ 3年間がんセンターで学んできました。そこで学んできたことを含めて、市民の皆様に対する医療に貢献したいと思います。

内分泌代謝内科

さわだ けい
澤田 慧 先生



- ① 糖尿病、内分泌
- ② 日本内科学会 認定内科医
- ③ スポーツ全般、映画鑑賞
- ④ 2~3年前に一時的に応援医師として来たことがありました。その時より成長した分、皆さんの助力になればと思います。よろしく願い致します。

腎臓内科

すず き のぶ ひろ
鈴木 信博 先生



- ① 腎臓、リウマチ、膠原病
- ④ よろしく申し上げます。

精神科

たけ さき なつ み
竹崎 奈津美 先生



- ① 気分障害、統合失調症、認知症など精神科全般
- ② 精神保健指定医
日本医師会認定産業医
- ③ 読書、音楽鑑賞、アロマセラピー
- ④ 少しでも南加賀地区の精神医療に貢献できればと思っていますので、よろしく申し上げます。



精神科



ふじ おか り え
藤岡 理恵 先生

- ① 精神科
- ③ 読書
- ④ 今後ともよろしく願っています。

外科



にし の たく ま
西野 拓磨 先生

- ① 消化器外科、一般外科
- ② 日本外科学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本DMAT隊員
- ④ 高校を卒業して以来、久しぶりに小松へ帰ってきました。地元小松で市民の皆様の健康をサポートできることを大変うれしく思っています。どうぞ宜しくお願いします。

形成外科



こばやし だい ご
小林 大吾 先生

- ① 形成外科一般
- ③ 読書、映画鑑賞
- ④ 精一杯やらせていただきます。宜しくお願いします。

脳神経外科



ひろ た ゆう いち
廣田 雄一 先生

- ① 脳神経外科、脳血管障害、脳血管内治療
- ② 日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本脳卒中学会専門医
- ③ 音楽鑑賞、登山
- ④ 脳卒中診療において、市民の皆さんの、お役に立てればと思います。

皮膚科



たけ はら こう へい
武原 康平 先生

- ① 皮膚一般
- ② 研修医指導医
- ③ イラスト、将棋、ゴルフ、東方
- ④ 今までの多くの経験を活かし、診察、治療に貢献していきたいと思えます。合わせて、皆様とともに成長し、市民の健康を守っていききたいと考えています。よろしく願い申し上げます。

放射線科



しば た よし ひろ
柴田 義宏 先生

- ① 放射線科診断(胸部CT・MRI等)
- ② 日本放射線学会 診断専門医
肺がんCT検診機構 認定医師
- ③ 音楽、オーディオ、パソコン等
- ④ 市民の皆様とは直接接することが少ない放射線科でございますが、病院の裏方として支えさせて頂きたいと考えておりますので、何卒よろしく御願致します。

麻酔科



こした しょう こ
越田 晶子 先生

- ① 麻酔科
- ② 日本麻酔科学会 麻酔科認定医
- ③ 音楽、映画、ロードバイク
- ④ 「患者さんに優しい麻酔」をモットーに日々診療しています。術前診察時などに不安な事があれば何でもご相談下さい。





やわたメディカルセンター

小松市八幡イ12-7 ☎47-1212



院長 勝木 達夫

やわたメディカルセンターの目指す目標は、「病気にならないための病院」です。当院では病気の治療のみならず、再発しない生活を整えることを大切に考えています。健診センターでの早期発見や、隣接する健康増進施設と連携した健康増進サービスにも力を入れています。

急性期治療では、関節や脊椎、スポーツ障害など幅広い整形外科疾患の手術を多数実施しています。循環器内科では、医師が24時間365日待機し、緊急のカテーテル検査・治療体制を整えているほか、他診療科が連携して疾患の早期発見・治療に努めています。急性期治療後は、豊富な専門スタッフが脳血管疾患や心疾患、整形外科疾患など広い分野のリハビリテーションを提供しており、退院後も介護保険事業や訪問看護、訪問リハビリテーションなどの切れ目のないサービスを提供しています。

小松市民病院など高度急性期医療を担う医療機関からリハビリテーション目的での紹介も多数あり、お互いに密な連携をとり、在宅復帰のお手伝いをしています。

当院は、皆様がこの地域で安心して過ごしていただけるように、地域の医療機関と密に連携し、地域の方に必要とされる医療・介護・健康増進サービスの提供により一層努めてまいります。



芦城クリニック

小松市土居原町175番地 ☎23-0011



院長 上田 幸生

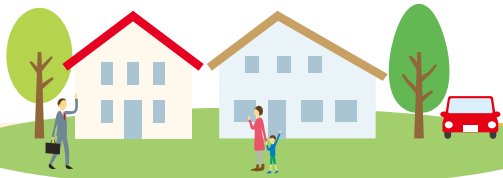
35年近く勤務した小松市民病院を5年前に定年退官した後、大阪府高槻市の義姉の小さな診療所で診療し、1年前から芦城クリニックに勤務しています。

高槻は病診連携が活発な地域であり、紹介・検査依頼等が行いやすく、特に目の前にある高槻赤十字病院には心エコー検査の患者さんについて行き専門の医師に教えて貰うこともありました。見知らぬ土地で不安いっぱいでしたが、かかりつけ医にとってこのような連携病院があることで安心して診療を行うことができました。小松に帰って、以前よりも地域連携がすすんでいると感じます。小松市民病院もつながるサポートセンターを立ち上げて力を入れておられますし、昔の仲間が沢山いて心強いです。診療を行う中で今更ながら感じることは、患者さんはかかりつけ医に安心と寄り添った医療を求めているということです。そのためには、高度な医療を担う中核病院との連携が大切であり、隣の診察室から対診依頼をする感じで相談できたらと思っています。

芦城クリニックは、従来からの整形外科診療に加えて、内科かかりつけ診療に力を入れており、運動療法・食事指導なども行き生活習慣病の予防や健康増進を特色としたクリニックを目指しています。当院には外来リハビリテーション・介護予防通所サービス・高齢者総合相談センター・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションがあり、これらの機能を活かして地域に貢献できるよう努めています。また、予防・健康増進のためのメディカルフィットネス施設を今年度開設する予定です。医療・介護・福祉・健康増進に関する様々なニーズにお応えできると思いますので、ぜひお気軽にご相談ください。

趣味はあまりないのですが、20年以上毎夏沖縄ヘダイニングに行っていました。ただ、歳もとりの周りの人にご迷惑をかける可能性もあり、ここ2~3年中断しています。その分、また京都のお寺巡りと教えて貰った魚釣りをしたいと思っています。





地域を共に支えるお医者さん

小松ソフィア病院

小松市沖町478番地 ☎22-0751



院長 亀田 正二

できるだけ地域の皆さんにいろんなことを提供して、地域の基盤になることを目指しています。

うちは、48床の小規模な病院ですが、様々な機能を持っており、特に在宅系に関して、機能をたくさんもっています。小さいことがメリットで、小さいだけじゃなくて、いろんな機能をもっているのが、地域の患者さんのいろんな要望に極めて迅速に、柔軟に対応できます。これがうちのグループの一番の強みであり、一番のうりです。もうひとつは、職員の意識が高い。小さいからだと思うが、足並みをそろえられる。大事なのは垣根にとらわれずに動けるところで、専門とか職種とか部署にとらわれず、一人でいろんな役をこなせることだと思います。

また、医療と看護、介護を一体化し、未病から看取りまで地域の方々を支え、また支えられていく、基盤的なチームを作っていきたい。そのために、セクショナルリズムにとらわれないで一人一人が迅速に的確に対応したい、といった基本方針にそって、職員はそういう意識が高いです。

さらに、うちの病院は、一番在宅で悪戦苦闘している病院だと自信を持って言えます。そのため、いろんなところから研修に来てもらっていますが、うちにくれば、日本における在宅医療のすべてが分かる、良い意味でも悪い意味でも、日本の在宅医療の現実を一番よく見れる、と自負しています。

趣味は、職員とおしゃべりすることです。



医療法人社団 松陽 東病院

小松市大領中町3丁目121番地 ☎21-1131



理事長 東 裕文



病院長 東 良

当院では脳神経外科一般はもとより、頭痛外来、生活習慣病の治療、外傷の処置、健康診断、予防接種など、幅広く地域に根ざした医療を提供できる外来診療を目指しております。入院では急性期治療やリハビリテーションを終え、長期の医療や看護を必要とする患者様を広く受け入れております。また在宅での生活を支援する訪問看護、訪問介護、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所、サービス付き高齢者住宅「咲みの樹」を併設しています。

引き続き基幹病院である小松市民病院と連携し、地域医療に貢献して参ります。今後共よろしくお願ひ申し上げます。





メディカルレポート

消化器内科

消化器内科担当部長 又野 豊

胃がん内視鏡検診

小松市では上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)による胃がん検診が始まりました。これまでの胃がん検診はバリウムによる胃透視検査のみでしたが、バリウムにアレルギーのある方は検査を受けられず、またバリウムでむせて肺炎になったり、バリウムが腸で固まって腸閉塞になったりすることがありました。

そこで小松市では平成30年より胃がん検診について内視鏡(胃カメラ)による検診をはじめました。小松市内の12の医療機関において胃カメラによる検診を受けることができます。

平成30年度の実績として、50歳、54歳、58歳、62歳、66歳の方を対象として「胃がん内視鏡検診」のご案内を送付し、6月20日から10月15日にかけて約500名超の方が受診されました。

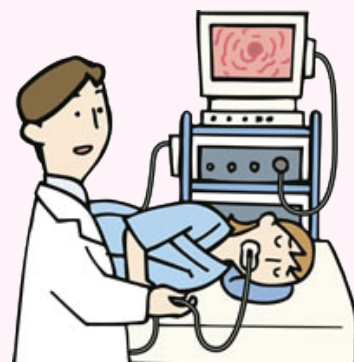
胃がん内視鏡検診については特定の年齢の方のみが対象となり、また受けるには条件があります。詳しくは小松市のホームページをご覧ください。

胃がん検診をしっかり受けておけば、胃がんを早期に発見でき、早期に治療ができます。平成31年度に胃がん内視鏡検診の対象となる方には後日ご案内が届く予定ですのでご覧ください。

平成30年度

小松市胃がん(内視鏡)検診実施医療機関 一覧

医療機関名	住 所
きたむら内科クリニック	小松市園町口33番地
小松ソフィア病院	小松市沖町478番地
十慈医院	小松市竜助町42番地
中川外科医院	小松市向本折町マ55番地
東野病院	小松市今江町7丁目468番地
東病院	小松市大領中町3丁目121番地
広崎外科医院	小松市日吉町51番地
本田内科クリニック	小松市若杉町1丁目55番地
見谷内科クリニック	小松市北浅井町ハ77番地
みなとクリニック	小松市幸町3丁目92番地
森田病院	小松市園町ホ99番地1
やわたメディカルセンター	小松市八幡イ12番地7





メディカルレポート

整形外科

整形外科担当部長 畑 雅彦

若さと骨粗鬆症

骨粗鬆症というと加齢とともに骨が弱くなり、骨折しやすい状態になった病気というのはもう有名ですので、ここではくどくど記載しません。高齢者の寝たきりになる原因のとして転倒や骨折は約10%で脳卒中、認知症、について3番目であることももうかなり有名です。皆さんは「この膝の痛みのせいで寝たきりにならんか」とか「腰部脊柱管狭窄症のせいで寝たきりにならんか心配」ということを言われますが、そんなものではまず寝たきりになりません。骨粗鬆症による骨折の方がよっぽど危ないのです。



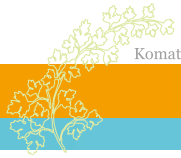
そんなことよりも見た目の若さと骨粗鬆症が関連しているとなると、多くの女性はすごく気になると思います。ほうれい線とか、目尻のシワとか、あご周囲の肉のたるみが骨密度と関連性があるというのです。そんなアホなとも思いますが、2018年4月17日(火)BSプレミアム「美女のヒミツは骨にあり」が放送されています(<https://www.nhk.or.jp/beautyscience-blog/2018/120/295299.html>)。簡単に説明すると骨密度が減ると、頭蓋骨の骨自身が縮み、骨の体積が小さくなってくるのだそうです。顔の土台として支えている骨が縮小すると、顔のあちこちで、表面の皮膚との間に隙間ができます。このために皮膚が余った状態となり、深いシワができるということです。特に下あごの骨密度の低下強く、このためにあご周囲のお肉がたるむのだそうです。私は骨密度だけがシワやたるみの原因とは思いません。やはり表情筋の萎縮や皮膚の水分量の低下なども関連していると思います。しかし、骨密度であれば薬物治療で進行を予防できます。

骨粗鬆症は椎体(背骨)の骨折が起きやすく、腰が曲がって姿勢が悪くなることはよく知られています。やはり皆さんも腰が曲がっている人を見ると年寄りくさいと思うでしょう。腰が曲がると体の重心が前の方になるためにバランスをとろうと、人は腰の後ろに手を組んで重心を少しでも後ろに移そうとします。そうすると歩きやすいのです。しかしそういう姿を見るとやはり年寄りくさいと感じてしまうのではないのでしょうか。わかりやすくいうと「胸を張ってケツを出す」ようなつもりで立つと比較的若い姿勢になると思います。腰回りの筋肉にも良いストレッチとなります。姿勢というのは見た目の印象に非常に重要と考えます。



骨粗鬆症は女性ホルモンの減少が大きく働くために女性に多いということも知っている人は多いでしょう。女性ホルモンというと、お肌のうるうるツヤツヤにもいかにも関係していそうです。じゃあ女性ホルモンを補充すれば、若さにも骨粗鬆症にもいいんじゃないかと思いついたあなた。その通りなんですけど、わが国では女性ホルモン薬は骨粗鬆症の薬としては認可されていません。女性特有のがん(乳ガン、子宮ガン)の発生率が高くなる危険性があるためです。なーんだダメかと思っちゃいましたが、実は女性ホルモン類似物質の骨粗鬆症薬があります。骨密度を上げる効果はさほど強くはないのですが、ガンの発症率が上がったという報告はありません。

ただ、お肌や髪の若さが少しでも保たれるような副作用があるかもわかりません。骨粗鬆症の薬として、その薬を私は妻に処方しています。副作用については今のところわかりませんけど。



メディカルレポート

脳神経外科

脳神経外科担当部長 村松直樹

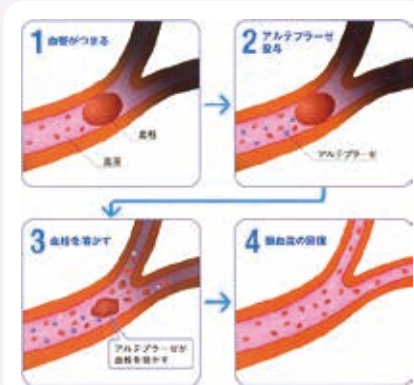
当科での脳卒中診療

当科で診療を行う疾患の一つが脳卒中です。脳卒中とは、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞のことです。2018年12月10日、国会にて、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」(脳卒中基本法)が成立しました。

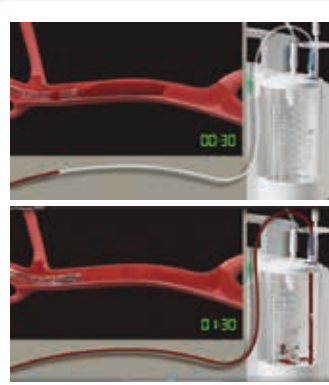
死因第2位の心臓病を含む循環器病と、寝たきり原因第1位の脳卒中に対して国をあげて取り組むこととなりました。これは、両疾患の原因と予防に共通点が非常に多く、いずれの疾患も発症後の迅速な治療が改善の鍵となり、リハビリテーションや再発・重症化予防が患者の生活の質の改善につながるなど、両者を一括して扱うこととしたものです。

脳卒中の予防、救急医療を含む急性期医療、リハビリを含めた急性期から慢性治療、介護期への切れ目のない医療、サービスを提供する体制を整えることも脳卒中基本法の成立の目的の一つです。当院では以前と同様に、内科と連携し急性期脳卒中医療、リハビリテーションを行うとともに、脳卒中連携パスを使用し、回復期リハビリテーション病院への転院をスムーズに進めていきます。また、退院後の経過観察はかかりつけ医にお願いしていますが、何かあった時の対処、画像診断などについては、つながるサポートセンターと連携して当科で行っていきます。

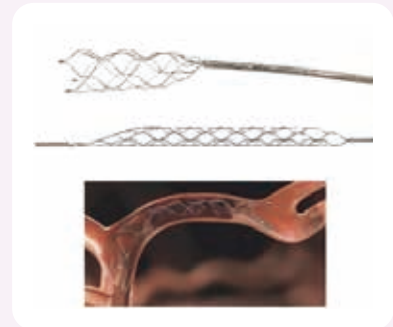
脳梗塞治療の中で今後も重要となるのが、超急性期(発症約8時間くらい)の脳梗塞治療です。法案成立の目的の一つは日本全国どこでも同じ治療受けられる体制を整備することにもあります。超急性期の脳梗塞治療には2つの方法があります。t-PA静注療法と血栓回収療法です。主に心房細動がある方で心臓にできた血栓(塞栓)が脳血管にとんで脳梗塞を起こしたときに行う治療です。薬(t-PA)を点滴静注して血栓を溶かす治療とカテーテルを用いて血栓を回収する治療です(カテーテルで血栓を吸引したり、ステントを用いて血栓を回収する方法)。時間内に血栓を溶かすことができたり、血栓が回収でき血行が戻れば症状が改善することが期待できます。いずれの治療も時間との勝負です。t-PA静注療法は“発症後”4.5時間までに点滴を行うことが必要です。当科では両方の治療をすでに行っていますが、脳卒中基本法の成立を受けて治療がさらにスムーズに行えるように院内での体制の整備を図っていきます。



t-PA(アルテプラゼ)静脈注射による血栓溶解療法



ペナブラシステムによる血栓吸引療法



ステントシステムによる血栓回収

編・集・後・記

今回、地域の先生方を訪問し、様々な実情をお聞きすることができました。それぞれの特色を活かした地域医療は共に支え、支えられているといった、強い思いが伝わってきました。このような貴重な時間を共有でき、感謝でいっぱいでした。(山本)



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60番地
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp